

CASBEE京都-新築(2015年版)
(仮称)京都三哲プロジェクト

■使用評価マニュアル CASBEE京都-新築(2015年版)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2015 (v.1.0)

スコアシート		基本設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音								
客室の騒音目標値を40dBとしている								
3.0 0.15 3.4 1.00 3.2								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率 ●自然 A(全国版準用)								
2 方位別開口 ●自然 B(推奨内容)								
3 昼光利用設備 ●自然 B(推奨内容)								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御 ●自然 B(推奨内容)								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
2 アスベスト対策								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能 ●自然 A(全国版準用)								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画 ●大切 D(独自基準)								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観 ●とも C(独自加点)								
2 リフレッシュスペース ●自然 D(独自基準)								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
3 衛生管理業務								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
1 耐震性								
2 免震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数 ●大切 A(全国版準用)								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								

2.4 信頼性					3.4	0.20	-	-	
1	空調・換気設備			空調配管は耐震支持を指定し、かつ重要度が高い系統を他系統と分けて計画している。	4.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備			節水型器具の採用、配管系統区分の細分化、受水槽に緊急用水栓を設置している。	4.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.6	0.30	2.4	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり					-	-	1.8	0.50	
1	階高のゆとり				3.0	-	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	● 大切	A(全国版準用)		3.0	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.6	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	● 大切	A(全国版準用)	天井スペース及びEPSの確保により構造部材だけでなく仕上げ材を傷めることなく更新・修繕ができる。	4.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	● 大切	A(全国版準用)	天井スペース及びEPSの確保により構造部材だけでなく仕上げ材を傷めることなく更新・修繕ができる。	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	● 大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	● 大切	A(全国版準用)		5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	● 大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	3.8
1 生物環境の保全と創出		● とも	A'(全国版準用)	中庭・北庭・東庭の植栽が生物環境に寄与している。	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	伝統的な建築構成を環境制御に活かしている。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮		● とも ● 自然	A'(全国版準用)	まちとの中間領域となるピロティの空間を設けている。	3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		● とも ● 自然	A'(全国版準用)		4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		● とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制					3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用		● 自然	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		● 自然	C(独自加点)	BEI 非住宅 0.86 住宅(専有部) ー	4.0	0.50	-	-	4.0
				太陽光発電を採用している。	4.0	1.00	-	-	
4 効率的運用					3.5	0.20	-	-	3.5
					3.5	1.00	-	-	
				主要な用途別エネルギー消費の内訳が把握できるよう計器を設置している。	4.0	0.50	-	-	
					3.0	0.50	-	-	
					-	-	-	-	
					4.0	-	-	-	
					3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護					3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水				節水コマなどに加えて、節水型便器を採用している。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
		● 自然	A(全国版準用)		3.0	0.70	-	-	
					3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.0	0.60	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減		● 大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		● 大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		● 大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		● 自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		● 大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70	-	-	
					-	-	-	-	
					-	-	-	-	
					3.0	1.00	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮				運用時のエネルギーに係るCO2排出量が参照値を下回っている。	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮					2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		● とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.5	0.25	-	-	
					3.0	0.25	-	-	
					3.0	0.25	-	-	
					1.0	0.25	-	-	
					3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
					3.0	0.33	-	-	
					3.0	0.33	-	-	
					3.0	0.33	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
					3.0	0.70	-	-	
					-	-	-	-	
					3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					3.0	0.20	-	-	
					3.0	0.70	-	-	
		● とも	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う「とも」:ともに使う「自然」:自然からつくる